

I 現状と課題（区学力調査から）

※現状

- 設定されている調査目標値（全国）は、どの教科も大幅に上回っている。今後は応用する力を育成し、思考力や判断力・表現力をさらに伸ばすことが課題である。
- 評価の観点等を視点とした課題は次の通りであり、具体的な内容は **Ⅲ 授業改善【基礎・基本の習得及び活用】** の「学力関係調査からの授業改善のポイント」に記載する。

平成25年度 評価の観点等を視点とした課題	平成26年度 評価の観点等を視点とした課題	平成27年度 評価の観点等を視点とした課題 (「」は観点、「」は領域) *表の下の※印は調査結果からの主となる指導上の課題
【第4学年】 国語：「書く力」〔音声言語〕 社会：「観察・資料活用の技能」 算数：「数学的な考え方」〔数と計算〕 理科：「科学的な思考・表現」〔物質・エネルギー〕	【第4学年】 国語：「読む力」「書く力」〔文学的文章〕 社会：「社会的な思考・判断・表現」 算数：「数学的な考え方」 理科：「科学的な思考・表現」	【第4学年】 国語：「読む力」「書く力」〔文学的文章〕 社会：「観察・資料活用の技能」〔地理的内容〕 算数：「数学的な考え方」〔数量関係〕 理科：「科学的な思考・表現」
【第5学年】 国語：「書く力」〔言語事項〕 社会：「観察・資料活用の技能」 算数：「数学的な考え方」 理科：「観察・実験の技能」	【第5学年】 国語：「読む力」「書く力」〔文学的文章〕 社会：「社会的な思考・判断・表現」 算数：「技能」〔図形〕 理科：「観察・実験の技能」	【第5学年】 国語：「書く力」〔説明的文章〕 社会：「社会的な思考・判断・表現」 算数：「数学的な考え方」 理科：「観察・実験の技能」〔物質・エネルギー〕
【第6学年】 国語：「読む力」〔文学的文章〕 社会：「観察・資料活用の技能」 算数：「数学的な考え方」 理科：「観察・実験の技能」	【第6学年】 国語：「読む力」「書く力」〔文学的文章〕 社会：「社会的な思考・判断・表現」 算数：「数学的な考え方」 理科：「観察・実験の技能」	【第6学年】 国語：「書く力」〔言語についての知識・理解・技能〕 社会：「社会的な思考・判断・表現」 算数：「数学的な考え方」 理科：「観察・実験の技能」〔物質・エネルギー〕

※個人差の大きい観点等についての指導の手立て

- 【4年生】国語「書く力」、算数「数学的な考え方」、社会〔地理的内容〕、理科「科学的な思考・表現」に関する領域の学習における個別指導の充実させる。国語「読む力」、算数「数量関係」、に関する領域の集団指導の改善。
- 【5年生】国語「書く力」、社会「社会的な思考・判断・表現」、算数「数学的な考え方」、理科「科学的な思考・表現」において個人差が大きい。全体的に思考力及び表現力に課題が見られるため、作文指導や話型指導、ノート指導を一層充実させる。
- 【6年生】社会「社会的な思考・判断・表現」、算数「数学的な考え方」、個に応じた指導を行うために、習熟度別少人数指導による授業を計画的に行い、児童一人一人に確かな学力が身に付くように指導法を工夫する。

II 授業改善の概要

1 学力と学習活動 個別指導を充実させることで、基礎・基本の定着を図り、D層の底上げを目指す。また、基礎的・基本的な知識・技能を活用して応用問題を解決できるよう、思考力・表現力をさらに伸ばすことを目指す。	2 授業改善の視点 「確かな学力」を育成する視点 【習得】－【活用】－【探究的な活動】へ ○「学び」の様相 A：知る・覚える B：考える・工夫する C：疑問・関心をもつ D：体験する ○「習得」の過程 A, B→A, C→B→A, D→B→C→A 等	3 授業改善の方策 ※各教科で課題を明らかにすると共に、前述のABC Dの関係「学び方」を整理し、習得・活用（項目Ⅲ）の学習指導・授業改善を図る。また、教育課程の具現化に結び付ける。 ※4年生以上は学力調査結果・分析に基づく授業改善に取り組む。 ※週の指導計画へ指導改善プランの項目記号を記載する。	4 達成度調査からの授業改善のポイント 国語、社会、算数、理科の4教科における「基礎・基本の習得及び活用」については、「項目Ⅲ」に記載する。
--	---	---	--

Ⅲ 授業改善【基礎・基本の習得及び活用】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
基礎・基本・活用 ◎課題	<p>○経験したことや想像したことなどについて、事柄の順序を考えて話したり聞いたりする。</p> <p>○大事なことを落とさずに聞く。</p> <p>○話題に合わせて話し合う。</p> <p>◎経験したことや想像したことなどについて、事柄の順序を考え、文や文章を書く。</p> <p>◎文章を読み返し、間違いなどに気付き修正する。</p> <p>◎事柄の順序を考えて書く。</p> <p>○書かれている事柄の順序を考え、場面の様子や登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。</p> <p>○昔話や神話、伝承などの本や文章に親しむ。</p> <p>◎さまざまなジャンルの読み物をバランスよく読む。</p> <p>○長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞「は」「を」「へ」を正しく使う。</p> <p>◎文章内での、促音、撥音を正しく表記する。</p> <p>◎文字の形に注意して、正しく丁寧に書く。</p>	<p>◎相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話す。</p> <p>◎話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりする。</p> <p>○話題の中心となる事柄や、話の中で大切な言葉を捉えながら話を聞くことができる。</p> <p>◎主述の関係や段落構成に気を付けて、文章を読んだり書いたりすることができる。</p> <p>○人物の気持ちや、場面の様子がわかるように音読する。</p> <p>○説明的文章の内容や要旨を理解できる。</p> <p>◎文学的文章の内容や主題を理解できる。</p> <p>○ローマ字を書くことができる。</p> <p>○国語の辞典を使うことができる。</p> <p>◎配当漢字を使ったり、必要な語句を増やしたりする。</p>	<p>◎目的や意図に応じ、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す。</p> <p>○話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べて共通点や相違点を見出し、考えを深める。</p> <p>◎目的や意図に応じ、文章全体の構成を考えながら事実と感想、意見などを区別し、自分の考えが伝わるように書く。</p> <p>○文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえて、自分の考えを明確にしながらかく読む。</p> <p>◎説明的文章の読解力を育てる。</p> <p>○目的に応じて本を選び、文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する。</p> <p>○本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <p>◎辞書を活用する力を育てる。</p> <p>○配当漢字を的確に使う。</p> <p>○字形の整え方や字配り、配列の仕方に気を付けて書く。</p> <p>○古文・漢文などの文語調の文章に親しむ。</p>
国語 指導の手立て	<p>a ○たくさんの文章や友達が書いた文を読む機会を多くとる。また、書いた文を互いに読み合い、構成する場を設ける。</p> <p>b ○書こうとする内容について、簡単なメモを作り、順序を考えて文章を書くようにする。</p> <p>c ○文章から考えたことを友達と交流し、様々な視点から場面の様子や登場人物の気持ちを想像できるようにする。</p> <p>d ○司書と連携して、さまざまなジャンルの読み物に触れやすい環境を作ったり、読書の記録を取ったりして、読むようにする。</p> <p>・読書の記録に感想を書く欄を設け、感想を書く機会を増やす。</p> <p>e ○長音、拗音、促音、撥音などの表記が正しく理解できるように、個別指導を継続する。</p> <p>f ○文字を書くときには、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら書くように、掲示物や言葉かけによって意識付ける。</p>	<p>a ○朝のスピーチを行い、聞き手は感想を述べる。</p> <p>b ○構成をとらえさせるため、それぞれに書くことを明確にする。(はじめ・中・おわり)</p> <p>c ○書いた文章を自分で見直したり、友達同士で読み合ったりして、よりよい文章にする。</p> <p>d ○図書の日や家庭学習に読書を位置付け、読書の楽しさを味わえるようにする。</p> <p>e ○物語文では、登場人物の気持ちの変化を叙述に即して読み取り、読み取ったことをもとに、物語の主題を考えたり互いの考えを交流する場を設けたりして考えを深められるようにする。</p> <p>f ○漢字テストの繰り返しや、家庭学習の定着を図り、正しい漢字を身に付けられるようにする。</p> <p>g ○日常的に、意味の分からない言葉は辞書を使って調べられるようにする。</p>	<p>a ◎朝の会や全校朝会でのスピーチを通して、相手や場に応じて話題を選択し、伝えたいことを明確に話す力を付ける。</p> <p>b ◎自分の考えを簡潔に伝えてから、その根拠となる事柄を付け加えて話すなど、よりよい構成を提示し、活用できるようにする。</p> <p>c ○音声資料を活用し、相手や場、内容に応じた話し方の例を示す。</p> <p>d ○国語科の学習時間を中心に、各教科において少人数のグループや全体での討論会など、さまざまな言語活動の体験を充実し、話すことの日常化を図る。</p> <p>e ○報告文や意見文などの様々な形態の文章を書いたり、俳句作りなどに取り組んだりする。また、作品を相互評価することで、言葉の選び方や表現技法などが身に付くようにする。</p> <p>f ◎説明的文章では、要旨や段落構成を的確に捉えて読み進めるとともに、筆者の考えに対する自分の意見をもつことができるよう、意見文をまとめる活動を取り入れる。</p> <p>g ◎朝読書の時間を活用し、課題図書やおすすめの本などを用意し、様々な文章に触れる機会を設ける。</p> <p>h ○物語文の読解の学習で、場面の描写を根拠に登場人物の心情やその変化について読み取れるようにし、小グループで意見の交流をできるようにする。</p> <p>i ○読み取ったことをまとめたり考えを発表したりする場を設け、考えを深められるようにする。</p> <p>j ◎新しい教材文に取り組む時には、意味調べを課題とし、辞書を日常的に活用する習慣が身に付くようにする。</p>

〔学力関係調査からの授業改善のポイント〕

- x ○「読むこと」に関わる国語の能力を身に付ける。 →発達段階に応じて、互いの考えを深め合う話し合い活動や文章の表現方法に着目したり、読み取ったことを書きとめたりするノート指導を重視する。
- y ○「書くこと」に関わる国語の能力を身に付ける。 →目的や意図に応じて表現する力を養うために、授業の中で「自分なりに」考えをまとめる活動を充実する。また、まとまりのある文章が記述できるように、考えたことや想像したことと事実を分けて整理して書く機会を授業の中に多く取り入れる。
- z ○言語活動の充実を図る。 →さまざまな言語活動の体験を通して、自分の考えが形成できるようにするとともに、話すことの日常化を図る。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
生活(第1・2学年)・社会(第3～6学年) 基礎・基本・活用(◎課題) 指導の手立て	◎身の回りの人とのかかわりについて考えるために、活動や体験したことを振り返り、自分なりに整理したり、気づき等を他の人たちと伝え合ったりする。 ◎集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動をとる。 ○自分と身近な動植物に関心を持ち、自然を大切にし、遊びや生活を工夫する。 ○身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わい、気付いたことを、言葉、絵、動作、劇などで表現し考える。 ○自分の住んでいる町に興味を持ち、進んで調べようとする。	○地域社会の一員としての自覚をもつことや、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。 ○地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用することができるようにする。 ○調べたことや考えたことを表現する力を身に付ける。 ○方位、地図記号などがわかる。 ◎資料を読み取り、社会的事象について自分なりの考えをもったり、友達の意見を聞いて考えを深めたりできる。 ◎東京都の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くからある建造物等を調べ、白地図などに表す。 ○東京都における災害の防止について関係諸機関が協力して執り行っていることを知る。 ○地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心を考える。 ○都道府県の位置と名称がわかる。 ○東京都と国内他地域とのつながりや外国とのつながりがわかる。	◎国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土に対する愛情を育てる。 ○歴史と政治、国際社会における我が国の役割に関心を持ち、それを意欲的に調べ、歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てる。 ○社会的事象を的確に調査するとともに、地図や地球儀、統計(5年)、年表(6年)などの各種基礎的資料を効果的に活用できるようにする。 ○社会的事象の意味についてより広い視野から考える力を身に付ける。 ◎国土や産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解する。 ◎先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと考え方や、関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解する。
	a ○異学年や身近な地域の人たちとの関わりをもつことができるような学習計画を立てる。 b ○体験、活動したことをカードに書いてまとめるなどの表現する活動を行い、その中で、自分や他への気づきを促すようにする。 c ○ふりかえりカードを書き、みんなで交流することで自分の役割や行動の仕方について気付くことができるようにする。 d ○植物を栽培していくと共に、身の回りの小さな生き物を飼育することで命の大切さ、自然の不思議さに気付けるようにする。 e ○年間を通して、自然環境と触れ合う学習活動を設定し、四季の変化に気付くことができるようにする。 f ○公共物や公共施設を利用し、身の回りには、みんなで使うものがあることや、それを支えている人々がいることを理解できるようにする。 g ○今までの自分の成長を振り返り、身の回りの人へ感謝の気持ちをもつと共に、自分でできるようになったことにも気づき、これからの成長へ、願いをもって、生活できるようにする。 h ○町探検を行い、自分の住む地域について興味をもつことができるようにする。	a ○実際に見学したり、調査したりする活動を行い、児童の意欲を引き出す。 b ○自分たちの地域や地域の人々について調べることにより、地域社会の一員であるという意識を育てる。 c ○良い気づきやまとめ方をクラスで共有し、良いものを真似していく。 d ○見学、調査、地域の人へのインタビュー等の学習形態を取り入れ、体験的な学習活動を多く取り入れる。図書室の資料やタブレット、パソコン等を活用する。 e ○日本地図を掲示し、都道府県の位置を確かめられるようにする。 f ○災害防止のために施設の見学・体験を行い、防災意識を高められるようにする。	a ○日本地図や世界地図、年表を授業の中で活用する回数を増やし、児童の理解を助けられるようにする。 b ○地図帳や地球儀、統計資料、年表などの見方や読み取り方を指導し、具体物を適切に使って調べ学習に生かせる力を身に付けられるようにする。 c ○興味を持った事柄をより詳しく調べるために本やインターネットなどを活用する。 d ○ICT機器を活用したり実物を提示したりすることで、児童の理解を深められるようにする。 e ○白地図への書き込みや都道府県に関するプリントを使い、名称や位置の理解などの習熟を図る。 f ○新聞作りや課題別の調べ学習を行うことで、適切に資料を選んだり自分で考え表現したりする力を付けられるようにする。 g ○ニュースや新聞などを活用し、日常的に社会事象に関心を向け、自分たちの暮らしとの関わりについて考えたり発表したりできるようにする。 h ○社会科見学等を活用し、体験的な学習を通して、理解が深められるようにする。

〔学力関係調査からの授業改善のポイント〕

- y ○「社会的な思考・判断・表現」に関わる社会の能力を育成する。
 →統計資料や年表等を読み取る時に、多方面から考えながら読み取ることを指導する。また、そこから考えられることを言葉や文章で表現する活動を充実する。
- z ○「観察・資料活用の技能」に関わる社会の能力を育成する。
 →体験的な学習やICT機器を活用した授業を展開したりして、児童の理解が深められるようにする。

		第1学年及び第2学年		第3学年及び第4学年		第5学年及び第6学年	
算 数	基礎・基本・活用(◎課題)	<p>【第1学年】 (第1学年) ○数の大小や順序を考え、数直線に表す。 ○数を十を単位としてみる。 ○加法や減法の計算の仕方を考え、計算をする。 ◎加法や減法を正しく計算する。 ○身の回りのものを大きさの単位として、そのいくつかで長さや面積、体積を比べる。 ○時刻を読む。 ◎時刻を何時と何時半を正確に理解する。 ○ものの形の特徴をとらえる。</p>	<p>【第2学年】 ○数の意味や表し方について理解し、活用する力を伸ばす。 ○加法及び減法についての理解を深め、活用する力を伸ばす。 ○乗法の意味を理解し、活用する。 ○長さについて単位と測定の意味を理解し、長さの測定をする。 ○体積について単位と測定の意味を理解し、体積の測定をする。 ○時間について理解し、活用する。 ○図形を構成する要素に着目し、図形について理解する。 ◎加法と減法の相互関係について理解し、式を用いて説明する。 ◎乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりする。 ○身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりする。</p>	<p>【第3学年】 ◎万の単位について知り、3位数・4位数の加法・減法の筆算ができるようにする。 ○乗法についての理解を深め、筆算の仕方について理解する。 ○除数が1位数の除法ができるようにする。 ◎長さについての理解を深め、長さについて単位と測定の意味を理解し、測定ができるようにする。 ◎二等辺三角形・正三角形・角・円・球について知り、コンパスや定規を使って作図できるようにする。 ○数量の関係を式に表したり、数量を□などを用いて表したりできるようにする。 ○資料を整理分析し、表や棒グラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。</p>	<p>【第4学年】 ○億・兆の単位について知り、十進位取り記数法についてまとめる。 ○概数について理解し、用いることができるようにする。 ◎整数の除法について理解を深め、その計算が確実にできるようにする。 ○小数の加法・減法・乗法・除法について理解し、用いることができるようにする。 ○面積の単位について理解し、正方形・長方形の面積を求めることができるようにする。 ◎角の測定や垂直・平行の関係について理解し、作図する。 ◎平行四辺形・ひし形・台形について知り、コンパスや分度器等を用いて描くことができるようにする。 ○伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりする。 ○()を用いた式について理解し、正しく計算できるようにする。</p>	<p>【第5学年】 ○約数や倍数について知り、整数の性質について理解を深める。 ○小数の乗法・除法の意味について理解を深め、立式したり計算したりすることができるようにする。 ○分数の加法・減法ができるようにする。 ◎三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積を求めることができるようにする。 ◎体積の考え方を知り、計算で求められるようにする。 ○単位量当たりの大きさについて知る。 ○多角形や円周率について知る。 ○百分率について理解できるようにする。 ○数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフ等を用いて資料の特徴を調べることができるようにする。</p>	<p>【第6学年】 ○分数の乗法・除法の意味について理解を深め、計算したり用いたりすることができるようにする。 ○小数や分数の計算能力を定着させる。 ○円の面積や角柱・円柱の体積を求めることができるようにする。 ◎速さの考え方を理解し、求めることができるようにする。 ○様々な単位の換算を身に付ける。 ○縮図や拡大、対称な図形について理解し、図形についての理解を深める。 ◎比や比例について理解し、式や表・グラフ等を用いてその特徴を調べる。 ○a や x 等の文字を用いて数量関係を表す式を立てたり、文字に数を当てはめて考えたりする。 ◎資料の平均や度数分布を表す表やグラフを用いて統計的に考察したり表現したりする。</p>
	指導の手立て	<p>a ○問題作りを行い、問題の構成をつかみ、考える力を養う。 b ◎具体物や半具体物を用いた活動、図を描いたり言葉に表したりする活動を多く設定し、理解を深める。 c ○直接比較や間接比較などを行う時は、特に算数的活動を意図的に設定する。(長さ、時間、立体、かさ) d ◎教材・教具の工夫と活用を行い、基礎・基本の習熟を図る。(フラッシュカード、算数ブロック、たし算・ひき算カード) e ○一人一人のつまずきに応じた個別指導の工夫をする。 f ◎繰り返し上がりや繰り返し下がりのある加減計算及び、かけ算九九については、繰り返し学習を行い、確実に習得できるようにする。</p>	<p>a ○ICT機器を活用して考えのヒントを与えたり、考え方を分かりやすく表現したりできるようにする。 b ○習熟度別少人数の学習の中で、東京ベーシック・ドリルを活用し、基礎基本の繰り返し練習を行う。 c ○新しい課題について、既習事項を使って考える場を設定する。 d ○話し合ったり、考えを発表し合ったりする場を設定する。 e ○図や式を使って、自分の考えをわかりやすく相手に伝える場面を設定する。 f ○技能向上と学習内容の定着を図るため、プリント・ドリルなどを使った反復練習や家庭学習を行う。 g ○道具(分度器・コンパス)を操作する時間を十分に確保する。</p>	<p>a ○習熟度別少人数学習の利点を生かし、それぞれのコース及び一人一人の児童に適した指導を展開する。習熟に時間を要する児童については、東京ベーシック・ドリルを活用しながら、フィードバックしながら繰り返し個別指導をする。 b ○ICT機器の活用や具体物の提示により、学習内容を分かりやすく理解できるようにする。 c ◎問題解決型学習を積極的に取り入れる。自分で考える時間を十分に確保し、図や式を用いて考えを表現できるようにする。また自他の考えを検討する時間を充実し、自分の考えを深められるようにする。 d ○児童一人一人に対応できるようにノート指導の充実を図る。</p>			

〔学力関係調査からの授業改善のポイント〕

- u ○習熟度別少人数学習の充実を図る。 →それぞれのコース及び一人一人の児童に適した指導を展開する。また、問題を解決するための時間を確保し、考えたことを自分の力でまとめられるようにする。
- v ○「数学的な考え方」に関わる算数の能力を育成する。 →友達の考えに触れ、どのように考えたのかをわかり合えるよう、互いに説明し合う機会を設定したり、考えたことをノートに記述する指導の充実を図ったりする。
- w ○基礎的・基本的な知識や技能を育成する。 →問題にじっくりと向き合って丁寧に解いていくことの大切さを指導するとともに、習熟に時間を要する児童については、フィードバックしながら繰り返し個別指導をする。
- x ○算数的活動の楽しさに触れられるようにする。 →具体物や半具体物を操作する活動を十分に行い、問題場面を正しくとらえたり、図形の性質を理解したりできるようにする。

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年		第5学年及び第6学年	
理科	基礎・基本・活用 (◎課題)	*1・2年の理科関係は、生活・社会の欄に記載。	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に親しむこと ○見通しをもって観察、実験などを行うこと ○問題解決の能力を育てること ○自然を愛する心情を育てること ○自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること ○科学的な見方や考え方を養うこと 			
	指導の手立て		<p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象を比較しながら調べる。 ○生物を愛護する態度を育てる。 ◎見出した差異点や共通点について興味・関心をもって追究する。 	<p>【第4学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自然の事物・現象の変化とその要因を、関係付ける。 ○見出した課題について興味をもって追究する。 ◎物の性質やその働きについての見方や考え方、自然の事物・現象に見られる規則性や関係についての見方や考え方を身に付ける。 	<p>【第5学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎変化させる要因と変化させない要因を区別しながら、観察、実験などを計画的に行っていく条件制御の能力を身に付ける。 ◎目的意識をもって観察・実験に取り組む。 ○自然の事物・現象の規則性についての見方や考え方、生命の連続性についての見方や考え方を身に付ける。 	<p>【第6学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自然の事物・現象の変化や働きについてのその要因や規則性、関係を推論する能力を身に付ける。 ○目的意識をもって、観察・実験に取り組む。 ◎物の性質や規則性についての見方や考え方、自然の事物・現象の変化や相互関係についての見方や考え方を身に付ける。
			<ul style="list-style-type: none"> a ○人間のもつ感覚（視覚・嗅覚・聴覚・触覚など）を上手に使い、観察できるようにする。 b ○観察時は、観点や視点を提示して行うことで、見通しをもった観察を行えるようにする。 c ○比較や予想をして、気付いたり考えたりしたことを具体的数値や比喻などを使ってより詳しく表現できるようにする。 d ○植物や昆虫に対する愛情を育てるために一人一人が植物を育てたり、クラスで昆虫を飼ったりする。 e ○観察した植物や昆虫以外の植物・昆虫にも学んだことがあてはまるのか、考えたり調べたりする活動を行う。 f ○既習事項を次時に生かし、科学的な見方や考え方を深める。 g ○電気のはたらきについて、実験を繰り返し行うことで、事象を正しく理解する思考力を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> a ○動物（メダカ）の誕生、植物の発芽と成長、人の誕生、の3つの生命の誕生について、それぞれの共通点や差異点を考えながらまとめることで、生命を尊重する態度を育てるとともに、動物の発生や成長についての見方や考え方をもつことができるようにする。 b ◎問題について、既習事項や生活経験をもとに、根拠のある仮説を立てる。 c ◎実験方法や実験計画を立てる場面では、何を調べたいのか問題をはっきりさせるとともに、問題を解決するための実験方法を児童一人一人が考えられるようにする。その際、変える条件と変えない条件をノートに記述しながら考えることで、条件制御の能力を育てる。 d ◎実験からわかることを、考察・結論として、言葉で表現する活動を重視する。その際、考察・結論が導き出しやすいように、結果を表やグラフに整理するなどの工夫を行う。 e ○学んだことが、身の回りのどのような場面で活用されているのかを考え、それらを有効に利用するための方法を見出す活動を行う。 	

〔学力関係調査からの授業改善のポイント〕

x ○「観察・実験の技能」に関わる社会の能力を育成する。

→基礎的な観察・実験の時間を今以上に確保し、個々の児童が技能を向上できるようにする。また、自然事象に触れる機会を意図的に設けたり、観察する観点や視点を提示し、見通しをもって観察できるようにする。

y ○「科学的な思考・表現」に関わる社会の能力を育成する。

→身近な自然の現状や、その変化を感じ取れるよう、校庭や校外学習などで折に触れ目を向けられるように指導する。また、観察や実験などの結果からどのようなことを考えることができるか、自分で考える時間の確保をする。

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
音楽	基礎・基本・活用(◎課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に対する関心をもち、進んで音楽表現や鑑賞の学習に取り組む。 ○範唱を聞いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする。 ○歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして思いをもって歌う。 ○範奏を聞いたり、リズム譜を見たりして演奏する。 ◎体や楽器によるリズム打ちを通して、リズムに対する感覚を身に付ける。 ○楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏する。 ○音楽を形づくっている要素のかかわり合いや楽曲の気分を感じとって聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする。 ○曲想や音楽を形づくっている要素を感じ取り、それらを生かし工夫して表現する。 ◎音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、考えや意図をもって音楽をつくる。 ○呼吸や発音の仕方に気を付けて自然で無理のない歌い方で歌ったり、音色に気を付けて楽器を演奏したりする。 ○音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けながら、曲想の変化を感じ取って聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創造的に音楽とかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする。 ○曲想や音楽を形づくっている要素を感じ取り、それらを生かし工夫して表現する。 ○音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくる。 ○呼吸や発音の仕方を工夫して、自然で無理のない響きのある歌い方で歌ったり、楽器の特徴を生かして演奏する。 ○音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴く。
	指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> a ○歌いながら体を動かしたり、リズム遊びをしたりすることを授業に取り入れる。 b ○歌ったり演奏したりする活動を互いに聞き合い、自分の演奏を振り返るとともに歌う楽しさを感じ、リズムよく演奏できるようにする。 c ○いろいろな音楽やリズムに触れさせ、楽曲の気分を感じ取りリズムに対する感覚を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○今まで学んできたことを生かし、友だちとかかわり合う(心と息を合わせて演奏したり、お互いの演奏を聴き合ったり、意見や感想を出し合う)中で、音楽の良さや面白さ、美しさを味わえるような学習活動を設定する。 b ○自分が表現したい感じや気持ちを、音楽を形づくっている要素と関連付けて工夫できるように題材との出会い方を工夫したり、学習活動に応じたグループ活動を取り入れたりする。 c ○自分の考えや意図をもち、その実現に向けて試行錯誤しながら工夫をする活動を楽しめるように、簡単な創作をし、音で確かめながら音楽の仕組みを学び、まとまりのある音楽をつくれるよう、学習過程を工夫する。 d ○全員に基礎技能が身に付くよう、児童の見取りと評価を充実し、課題のある児童には個別指導をする。 e ○音楽を形づくっている要素や楽曲の仕組みに気付くようポイントを絞って鑑賞できるようにする。また、感じ取ったことを言葉で表現できるようにするために、板書や黒板掲示を工夫したり、友達と交流する活動を取り入れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○今までに学んできたことを生かし、友だちとかかわり合う(心と息を合わせて演奏したり、お互いの演奏を聴き合ったり、よさを認め合ったり)中で、表現する喜びを味わえるような題材を選択し、指導の工夫を図る。 b ○自分の心の中の様々な思いや考えを、音楽を通して表現したり伝えたりするだけでなく、音楽を形づくっている要素やその働きを生かし、聴き手に明確に伝わる表現ができるように、お互いの演奏を聴き合い、児童が主体的により良い演奏を目指させるような活動を取り入れる。 c ○自分の考えや意図をもち、その実現に向けて試行錯誤しながら工夫をする活動を楽しめるように、簡単な創作をし、音で確かめながら音楽の仕組みを学び、まとまりのある音楽をつくれるよう、学習過程を工夫する。 d ○全員に基礎技能が身に付くよう、児童の見取りと評価を充実させ、課題のある児童には個別指導をしていく。 e ○楽曲の構成を理解したり、曲想を感じ取れるようしたりするために、ポイントに絞って鑑賞できるようにする。また、感じ取ったことをまとめたり言葉で表現できるようにするために、ワークシートを工夫するとともに、板書や黒板掲示を工夫したり、友達と交流する活動を取り入れたりする。
図工	基礎・基本・活用(◎課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な材料を基にして思いつくままに作り上げる。 ○並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせて作る。 ◎体全体の感覚を働かせて活動する。 ◎感じたことや想像したことから表したいことを見付けたり、好きな色を選んだり、いろいろな形を作ったりして表す。 ○身近な作品を見たり、感じたことを話したりして、表し方の面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な材料や場所などを基に発想してつくる。 ◎表現活動では形や色、イメージなどから新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったり考えたりしながらつくる。 ○前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ったりつないだり形を変えたりするなどしてつくる。 ○感じたこと、想像したこと、見つけたことから、表したいことを見つけて表す。 ○自分たちの作品や身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくる。 ○絵画や工作などの表現活動では前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる。 ◎感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見つけて表す。 ○感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる。
	指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> a ○はさみやのり、粘土などの身近な用具・材料を使う活動を通して、用具を扱う技能を高めるとともに思いのままに作り上げる時間の確保をし、表現力や発想力を高める。 b ○作品を見合う機会を設け、互いの作品について交流する場の設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> a ◎材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくる。 b ○絵画や工作などの表現活動では前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる。 c ◎感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見つけて表す。 d ○感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○これまでの経験が総合的に活用できるような指導を工夫する。特に高学年における発達の特徴を考慮しながら指導する。 b ○児童一人一人の材料や用具の経験が生かせるような指導を工夫する。また、友人の表現方法や材料の使い方が自然に取り入れられるように参考作品を掲示するなど、学習環境の工夫をする。 c ◎この時期の児童が、興味や関心の対象を広げる中で自分らしい感じ方やみかたをすることに配慮しながら指導する。

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
家庭	基礎・基本・活用(◎課題)			<ul style="list-style-type: none"> ○衣食住に関する実践的・体験的活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。 ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。 ○自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
	指導の手立て			<ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活から課題を見つけたり、考えたりするなどの問題を解決する学習を進める。 ○自分の生活を振り返ることによって、家族に支えられて育ってきたことに気付くようにする。 ○制作や調理などの実習、インタビューや実験等の実践的・体験的活動を通して、日常生活に必要な知識や技能を身に付けられるようにする。 ○家族や地域のために何ができるか考えたり、実践したりできるようにする。
体育	基礎・基本・活用(◎課題)	<ul style="list-style-type: none"> ◎体づくり運動やゲーム、各運動遊びの行い方を考え、工夫する。 ◎体づくり運動やゲーム、各運動遊びを楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け、体力を養う。 ◎きまりを守るなど、集団行動の基礎を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで楽しく、めあてをもって運動しようとする。また、きまりを守り、互いに協力し、健康・安全に留意して運動する。 ◎各種の運動に進んで取り組み、楽しく行い、その基本的な動きや技能を身に付け、体力を養う。 ○健康な生活、体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。 ◎きまりを守り仲良く運動したり、安全に気を付けたりする。 ○体を動かす楽しさや、心地よさを味わい、基本的な動きができるようにする。 ○友達と動きを確認し合い、お互いにアドバイスすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力・公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動する。 ◎自己の能力に応じた課題を理解して、活動の仕方を考え、工夫して運動する。 ○運動の楽しさや喜びを味わい、特性に応じた基本的な技能を身に付けて体力を高める。 ○心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を身に付ける。
	指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> a ○用具や器械・器具を使い、自分の体のいろいろな動かし方を知り、その基本的な動きを身に付ける。 b ○運動を通して誰とでも仲良くきまりを守り、安全に気を付けて活動できるようにする。 c ○学習カードを活用し、意欲的に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○自分の努力やみんなとの協力により「できた」という経験を多くすることで、体を動かすことの楽しさに気付くようにする。 b ○めあてカードなどを使って、めあてを明確にし、自分に合った目標に向かって活動できるようにする。 c ○活動の中に自分なりの工夫やチームの考えが多く発揮できるようにする。 d ○教え合いや励まし合える場を多く設定するなど、一時間の指導計画を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○学習の準備や片付けに主体的に取り組む中で、場の安全を意識し、運動を通して健康的な体をつくることの大切さを実感できるようにする。 b ◎教え合ったり、励まし合ったりする場を多く設定し、課題解決的な場面や単元計画を工夫する。 c ○スポーツテストの結果から、自分の能力について理解し、自分の苦手な分野に力を注ぎ、進んで運動できるようにする。 d ○数値化することで、技能や体力の高まりが実感できるようにする。 e ○自分の生活体験から問題意識をもち、課題解決的な学習を行うことで、健康で安全な生活を意識できるようにする。

Ⅳ 授業改善【探究】 「総合的な学習の時間」

	第1学年及び第2学年〔生活科等〕	第3学年及び第4学年〔総合的な学習の時間〕	第5学年及び第6学年〔総合的な学習の時間〕
目標		<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見付け、課題を解決するために、自分の方法で追究し、表現し、活動を振り返る。 ○立場や考えの違うさまざまな人の存在に気付き、より良い関わり方をしようとする。そして、それらの関わりの中で、より良く生きようとする。 ○相手や目的に応じて、効果的な表現方法を工夫する。(外国語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(探究する力) 経験や人とのかかわりから課題を発見し、探究していく中で得た情報と自分の考えを関係付け、目的や意図に応じて応答と説明ができる。 ○(かかわる力) 自分の考えを伝えたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりし、協同して学習する中で、考えを深めたり、広めたり、新しい考えを生み出したりできる。 ○(生かす力) 自分の将来や、他者、社会のために、自分ができることを考えたり、実行したりしようとする。
内容		<ul style="list-style-type: none"> ○「日本」について知ろう ○福祉体験(車いす) ○外国語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○パソコンマスター ○誰もが関わりあえるように ○環境について考えよう ○二分の一成入式 ○外国語活動
指導の手立て		<ul style="list-style-type: none"> a ○日本についてより深く知るために、大使館との交流を通して他の国について知り、他国と比較することで日本の良さに気付けるようにする。 b ○実際に、車いすに乗ったり、押したりする体験を通して、自分以外の人の立場や苦勞などに気付き、自分の生活をよりよくしようという気持ちを培う。 c ○メールや掲示板など、便利さと同時に安全に使うために気を付けなければならないことに気付けるようにする。 d ○タイピングソフトなどを活用して、正しく早くタイピングが打てるようにする。 e ○自分が生まれた時の両親の思いや自分の成長を知り、また、今後の夢や目標について考えることにより、より良い自分を目指そうとする態度を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○自分自身を振り返ることで、個々の課題を見出し、様々な調べ方や表現の仕方を学び、課題解決に合う方法を取捨選択して、追究する活動を行う。 b ○上級生との教え合い活動を通して、学校の伝統を守ることの大切さを実感させる。また、成果を発表する場を設け、より意欲的に地域や周囲の人とかかわろうとする思いをもてるようにする。 c ○各教科との関連を図り、課題設定や発表の方法などにおいて、児童が主体的に取り組めるようにする。 d ○孺恋自然体験交流教室を通して、自分の課題を明確にもち、問題解決能力を育むとともに、課題の解決や調査結果を伝える相手を明確にして、相手意識をもった効果的な表現を身に付けられるようにする。 e ○箱根移動教室を通して、自分の課題を明確にもち、問題解決能力を育むとともに、相手に合わせた効果的な資料作りや、より伝わるプレゼンテーションの方法を身に付けられるようにする。

V 道徳の改善

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○周りの様子を考えず、わがままになることがある。 ○一つのことに集中すると、周りが見えなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うそをついたり、ごまかしたりしないで、素直にのびのびと生活することが、まだ不十分の児童がいる。 ○気持ちのよいあいさつや、場に応じての言葉遣いが、まだ不十分の児童がいる。 ○約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達を思いやる気持ちや困っている友達を進んで助けようとする心情が十分ではない。 ○集団生活におけるきまりやルールを守ろうとする意識がうすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間を守る、忘れ物をしない、整理整頓をするなどの基本的な生活習慣が十分に身に付いていない。 ○相手の気持ちを考えた声のかけ方が苦手で、きつい言い方になってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎次のことを考えて、自分から進んで行動することが苦手である。 ○集団生活において、相手の考えを受け入れられず、自分本位な行動をとる場合がある。 ○努力をする前に弱音が出てしまう場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎最高学年として自分の選択した行いには必ず責任が伴うということを理解する力が十分ではない。 ○道徳的価値についての理解はできているが、普段の生活と結びつけることが苦手である。 ○友達に話しかける言葉が乱暴な時がある。
指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> a ○道徳の時間だけでなく、他教科、休み時間など、日々の学校生活の中で、時を逃さず、確実な指導を行い、道徳性を育む。 b ○自分を見つめ、自分を振り返ることができるような機会を設けていく。 c ○互いに声を掛け合っても、素直に受け止められる人間関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○心の教育は、道徳の時間のみでなく、他の学習活動や休み時間などにも取り上げ、素直に伸び伸びとした心が育つように促す。 b ○あいさつを励行し、話し合い活動や読み物を通して、相手に対するいたわりの気持ちを育み、適切な言葉遣いを学んでいくようにする。 c ○学校・学年・学級のきまりに対して、自ら進んできまりを守って楽しい学校生活がおくれるような雰囲気づくりを心がける。また、学校生活全般を通して、物を大切にする心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○起こったことをクラスや学年で共有し、みんなの問題として取り上げる。 b ○良い態度や姿勢を認め、子供自身に意識を変えさせるよう働きかける。 c ○改善すべき点は何度もその場で繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○道徳の時間に限らず全ての教育活動を通して、基本的な生活習慣や友達との関わり方について重点的に指導する。 b ○身近な学習題材や出来事を多く取り入れ、関心をもって道徳的価値について考えられるようにする。 c ○問題があったときは、その都度話し合いや指導をし、人との接し方や相手を思いやる気持ちなどを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○身近な出来事や問題を取り上げ、関心をもって道徳的価値について考える場面を繰り返し設け、実践的な態度を育む。 b ○友情や思いやりを重点的に扱い、相手との関わりについて自分を振り返る機会を作る。 c ○道徳の授業だけでなく学校生活の様々な場面で目標を設定させ、努力することの大切さや根気よく課題に取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> a ○委員会活動、クラブ活動、学校行事での仕事だけでなく、普段の学校生活における一つ一つの行動に責任がもてるよう意識させることで、自ら考えて行動できるようにする。 b ○身近な出来事や問題を取り上げ、関心をもって道徳的価値について考える場面を繰り返し設け、実践的な態度を育む。 c ○学級を自主的に運営する中で、人との接し方や相手を思いやる気持ちなどを具体的に学べるようにする。